

第 8 期 決 算 公 告

平成 30 年 6 月 26 日

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
株式会社大和ネクスト銀行  
代表取締役社長 中村比呂志

貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
現 金 預 け 金	2,016,511	預 金	3,506,022
預 け 金	2,016,511	当 座 預 金	3,435
有 価 証 券	955,888	普 通 預 金	1,620,224
国 債	10,417	定 期 預 金	1,581,020
地 方 債	28,284	そ の 他 の 預 金	301,341
社 債	233,021	譲 渡 性 預 金	50,000
株 式	11,923	売 現 先 勘 定	43,701
そ の 他 の 証 券	672,242	債 券 貸 借 取 引 受 入 担 保 金	126,401
貸 出 金	1,312,828	借 用 金	369,400
証 書 貸 付	1,312,666	借 入 金	369,400
当 座 貸 越	161	外 国 為 替	13
外 国 為 替	5,934	未 払 外 国 為 替	13
外 国 他 店 預 け	5,934	そ の 他 負 債	99,042
そ の 他 資 産	37,565	未 払 法 人 税 等	1,699
前 払 費 用	354	未 払 費 用	3,950
未 収 収 益	4,389	金 融 派 生 商 品	4,894
先 物 取 引 差 入 証 拠 金	2,180	金 融 商 品 等 受 入 担 保 金	5,957
先 物 取 引 差 金 勘 定	56	未 払 金	82,443
金 融 派 生 商 品	7,455	そ の 他 の 負 債	96
金 融 商 品 等 差 入 担 保 金	18,301	賞 与 引 当 金	159
そ の 他 の 資 産	4,827	役 員 賞 与 引 当 金	68
有 形 固 定 資 産	8	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	36
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	8	繰 延 税 金 負 債	3,396
無 形 固 定 資 産	5,154	<b>負 債 の 部 合 計</b>	<b>4,198,240</b>
ソ フ ト ウ ェ ア	5,154	<b>(純資産の部)</b>	
貸 倒 引 当 金	△ 7	資 本 金	50,000
		資 本 剰 余 金	50,000
		資 本 準 備 金	50,000
		利 益 剰 余 金	27,333
		そ の 他 利 益 剰 余 金	27,333
		繰 越 利 益 剰 余 金	27,333
		<b>株 主 資 本 合 計</b>	<b>127,333</b>
		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	9,697
		繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 1,388
		<b>評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計</b>	<b>8,309</b>
		<b>純 資 産 の 部 合 計</b>	<b>135,642</b>
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>4,333,883</b>	<b>負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計</b>	<b>4,333,883</b>

損益計算書

〔平成29年 4月 1日から  
平成30年 3月 31日まで〕

(単位：百万円)

科 目	金 額	
<b>経 常 収 益</b>		<b>66,709</b>
資 金 運 用 収 益	34,194	
貸 出 金 利 息	12,916	
有 価 証 券 利 息 配 当 金	19,599	
預 け 金 利 息	1,676	
そ の 他 の 受 入 利 息	1	
役 務 取 引 等 収 益	60	
受 入 為 替 手 数 料	42	
そ の 他 の 役 務 収 益	18	
そ の 他 業 務 収 益	31,515	
外 国 為 替 売 買 益	4,667	
国 債 等 債 券 売 却 益	26,848	
そ の 他 経 常 収 益	938	
株 式 等 売 却 益	908	
そ の 他 の 経 常 収 益	30	
<b>経 常 費 用</b>		<b>62,478</b>
資 金 調 達 費 用	19,950	
預 金 利 息	5,160	
譲 渡 性 預 金 利 息	6	
売 現 先 利 息	1,080	
債 券 貸 借 取 引 支 払 利 息	3,412	
金 利 ス ワ ッ プ 支 払 利 息	10,287	
そ の 他 の 支 払 利 息	4	
役 務 取 引 等 費 用	3,547	
支 払 為 替 手 数 料	274	
そ の 他 の 役 務 費 用	3,273	
そ の 他 業 務 費 用	30,331	
国 債 等 債 券 売 却 損	28,516	
金 融 派 生 商 品 費 用	1,814	
営 業 経 費	7,559	
そ の 他 経 常 費 用	1,089	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	2	
そ の 他 の 経 常 費 用	1,087	
<b>経 常 利 益</b>		<b>4,231</b>
<b>税 引 前 当 期 純 利 益</b>		<b>4,231</b>
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,772	
法 人 税 等 調 整 額	△ 458	
<b>法 人 税 等 合 計 益</b>		<b>1,313</b>
<b>当 期 純 利 益</b>		<b>2,917</b>

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、売買目的有価証券及びその他有価証券については決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

### 2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

### 3. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

有形固定資産は、定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

器具備品 4年～18年

#### (2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

### 4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

### 5. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、予想損失率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署及び審査所管部署が資産査定を実施しております。

#### (2) 賞与引当金

賞与引当金は、出向従業員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算基準による支払見積額の当事業年度負担分を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算基準による支払見積額の当事業年度負担分を計上しております。

#### (4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支払いに備えるため、当社の取締役退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

### 6. ヘッジ会計の方法

#### (1) 金利リスク・ヘッジ

金融資産から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号 平成27年4月14日)及び「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。その他有価証券に区分している固定金利の債券の相場変動を相殺するヘッジにおいては個別にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジのうちヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているものは、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。それ以外のものについてはヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し両者の変動額を基礎にして判定しております。固定金利の貸出金の相場変動を相殺するヘッジにおいては業種別監査委員会報告第24号に基づき一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し有効性を評価しております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

(貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券	169,956百万円
貸出金	407,503百万円
担保資産に対応する債務	
売現先勘定	43,701百万円
債券貸借取引受入担保金	126,401百万円
借入金	369,400百万円

上記のほか、為替決済の取引の担保として有価証券4,696百万円を差し入れております。

また、その他の資産には、保証金156百万円が含まれております。

2. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、11,096百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが11,096百万円あります。

なお、これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

3. 有形固定資産の減価償却累計額 4百万円

4. 関係会社に対する金銭債務総額 963百万円

5. 銀行法第18条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。

剰余金の配当をする場合には、会社法第445条第4項（資本金の額及び準備金の額）の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額に5分の1を乗じて得た額を資本準備金又は利益準備金として計上することとなります。

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引による収益

その他経常取引に係る収益総額	9百万円
関係会社との取引による費用	
資金調達取引に係る費用総額	0百万円
役員取引等に係る費用総額	0百万円

## 2. 関連当事者との取引

### (1) 親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	株式会社大和証券グループ本社	被所有 直接100%	役員の兼任	-	-	-	-

### (2) 兄弟会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	大和証券株式会社	なし	有価証券の売買 デリバティブ取引 担保金の受入 債券の貸付 役員の兼任	有価証券の購入及び売却(注1)(注2) デリバティブ取引(注1)(注2) 担保差入(注1)(注2) その他の受入利息(注1) 金利スワップ支払利息(注1) その他の支払利息(注1) 外国為替売買損(注1)(注2) 担保金の受入(注3) 債券の貸付(注3) 有価証券利息配当金(注3) 債券貸借取引支払利息(注3)	- - - △ 0 4,321 △ 0 - 102,690 102,193 18 1,482	- 金融派生商品(資産) 金融派生商品(負債) 未収収益 未払費用 債券貸借取引受入担保金 未収収益 未払費用	- 93 187 1 10 121,349 1 168
親会社の子会社	大和証券エスエムピーシー プリンシパル・インベスト メンツ株式会社	なし	資金取引	譲渡性預金の受入(注4) 譲渡性預金利息(注4)	103,285 6	譲渡性預金	-

#### 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 市場価格を勘案し、一般的取引条件と同様に決定しております。  
(注2) 反復的取引であるため、取引金額を省略しております。  
(注3) 取引金額には、貸付債券の時価及び受入担保金額の月末平均残高を記載しております。  
また、債券の貸付料率及び担保金金利は市場の実勢相場に基づき合理的に決定しております。  
(注4) 取引金額には、譲渡性預金の期中平均残高を記載しております。また、譲渡性預金の利率は、取引期間に応じ、市場の実勢相場に基づき合理的に決定しております。

## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、預金業務、貸出業務、為替業務、有価証券投資業務などを行っております。これらの業務に伴い、貸出金、債券等の金融資産を保有するほか、預金、債券貸借取引等による資金調達を行っております。このように、当社は、主として金利・為替等の変動を伴う金融資産及び金融負債を有していることから、資産負債の適切なバランスを保つことを目的に、資産負債の総合管理(ALM)を行っております。また、その一環としてデリバティブ取引も行っております。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、主として国債、財投機関債、外国証券等の有価証券であります。これらは、発行体の信用リスク、金利の変動リスク、為替の変動リスク及びその他の市場価格の変動リスクに晒されております。また、貸出金は、外貨建てローン債権、住宅ローン債権、オートローン債権等を裏付資産とした流動化案件に対する貸出等であり、債務不履行に伴う信用リスク、金利リスク及び為替リスクに晒されております。一方、金融負債は、主として顧客からの預金であり、金利リスク等の市場リスク及び資金流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、債券に係る金利の変動リスクに対するヘッジ手段として金利スワップ取引を行い、必要に応じてヘッジ会計を適用しております。また、金利スワップ取引の他に、為替予約取引等を行っております。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスクの管理

当社は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引におけるカウンターパーティーリスク等の信用リスク管理については、信用情報や時価の把握を定期的に行い管理しております。貸出金については、個別案件ごとの与信審査、信用情報、外部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など与信管理に関する体制を整備しリスク管理を実施しております。

全体的な信用リスク管理は、リスクマネジメント部が行い、モニタリング結果を定期的にALM委員会に報告しております。

##### ② 市場リスクの管理

###### (i) 金利リスクの管理

当社は、市場リスクに関する管理諸規程に従い、金利リスク管理の対象となる金融資産及び金融負債について、金利の変動リスク(日本銀行のマイナス金利政策によるものを含む。)に対するリスクリミットを設定し、リスクマネジメント部において日次で把握・確認を行っております。また、モニタリング結果を定期的にALM委員会に報告しております。

(ii) 為替リスクの管理

当社は、市場リスクに関する管理諸規程に従い、為替リスク管理の対象となる金融資産及び金融負債について、為替の変動リスクに対するリスクリミットを設定し、リスクマネジメント部において日次で把握・確認を行っております。また、モニタリング結果を定期的にALM委員会に報告しております。

(iii) 市場価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有については、当社の市場リスクに関する管理諸規程に従い行っております。リスクマネジメント部は、価格変動リスクの状況や、リスクリミット・損失限度に照らした適正性をそれぞれ日次で把握・確認を行っております。また、モニタリング結果を定期的にALM委員会に報告しております。

(iv) デリバティブ取引の管理

デリバティブ取引については、市場リスクに関する管理諸規程に従い管理を実施しております。また、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立しております。リスクマネジメント部は、取引状況のモニタリングを行い、その結果を定期的にALM委員会に報告しております。

(v) 市場リスクに係る定量的情報

当社では、金融資産及び金融負債について、市場リスク（金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債（オフ・バランスを含む。）の価値が変動し損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスク）の管理にあたり、バリュー・アット・リスク（一定の信頼水準の下での最大予想損失額。以下「VaR」という。）を用いております。VaR計測の方法は、ヒストリカル・シミュレーション法（信頼区間99%、観測期間750営業日）を採用しております。売買目的の金融商品は保有期間1日で算出した値を保有期間10日に、売買目的以外の金融商品は保有期間20日で算出した値を保有期間125日に換算した値をVaRとして利用しております。平成30年3月31日現在における当該数値は、売買目的の金融商品は221百万円、売買目的以外の金融商品は6,561百万円であります。

なお、当社では、リスク計測モデルによって算出されたVaRと仮想損益額との比較を行うバックテストを定期的実施し、当該モデルの有効性を検証しております。当事業年度に実施したバックテストの結果、当社が使用するリスク計測モデルは市場リスクを適切に捕捉しているものと認識しております。ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下においてはリスクを十分に捕捉できない場合があります。このようなVaRによる管理の限界を補完するため、各種シナリオを用いた損失の計測（ストレステスト）を実施しております。

③ 資金流動性リスクの管理

当社は、資金流動性リスク管理として、流動性カバレッジ比率を算定し、リスクマネジメント部が日々モニタリングを行い、その結果を定期的にALM委員会に報告しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)現金預け金	2,016,511	2,016,511	-
(2)有価証券	955,888	956,304	415
売買目的有価証券	11,923	11,923	-
満期保有目的の債券	111,535	111,951	415
その他有価証券	832,430	832,430	-
(3)貸出金	1,312,828		
貸倒引当金(*1)	△ 3		
	1,312,824	1,313,434	609
資産計	4,285,225	4,286,250	1,025
(1)預金	3,506,022	3,506,016	△ 6
(2)譲渡性預金	50,000	50,000	-
(3)売現先勘定	43,701	43,701	-
(4)債券貸借取引受入担保金	126,401	126,401	-
(5)借入金	369,400	369,400	-
負債計	4,095,525	4,095,519	△ 6
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(978)	(978)	-
ヘッジ会計が適用されているもの	3,539	3,539	-
デリバティブ取引計	2,561	2,561	-

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(\*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で表示しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法

### 資産

#### (1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

#### (2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格または取引金融機関等から提示された基準価格によっております。

#### (3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間等に基づき、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

### 負債

#### (1) 預金

預金のうち、要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、将来のキャッシュ・フローを見積もり、一定の割引率で割り引いて時価を算定しております。割引率は、当社の信用スプレッドを加味したイールドカーブから算定しております。

#### (2) 譲渡性預金

譲渡性預金は、約定期間が短期間(1年以内)であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

#### (3) 売現先勘定

売現先勘定は、約定期間が短期間(1年以内)であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間（1年以内）であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(5) 借入金

借入金は、将来のキャッシュ・フローを見積もり、同様の借入において想定される利率で割引いて時価を算定しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引、通貨関連取引、株式関連取引及びクレジット・デリバティブ取引であり、割引現在価値等により算定した価額によっております。

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券（平成30年3月31日現在）

	当事業年度の損益に含まれた評価差額 (百万円)
売買目的有価証券	△ 249

2. 満期保有目的の債券（平成30年3月31日現在）

(単位：百万円)

	種類	貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	社債	100,736	101,158	422
	小計	100,736	101,158	422
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	社債	10,798	10,792	△ 6
	小計	10,798	10,792	△ 6
合計		111,535	111,951	415

3. 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式（平成30年3月31日現在）

該当ありません。

4. その他有価証券（平成30年3月31日現在）

(単位：百万円)

	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	債券	77,559	74,606	2,952
	国債	10,417	10,052	364
	社債	67,142	64,554	2,587
	その他	450,299	435,842	14,457
	外国債券	243,031	240,587	2,444
	その他	207,268	195,254	12,013
	小計	527,859	510,449	17,410
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	債券	82,628	82,708	△ 79
	地方債	28,284	28,309	△ 24
	社債	54,343	54,399	△ 55
	その他	221,942	225,294	△ 3,352
	外国債券	176,119	178,576	△ 2,457
	その他	45,822	46,718	△ 895
	小計	304,570	308,003	△ 3,432
合計		832,430	818,452	13,977



5. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）  
該当ありません。
6. 当事業年度中に売却したその他有価証券（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
債券	759,926	24,007	203
国債	742,158	24,007	170
社債	17,768	-	32
その他	920,646	2,840	28,292
外国債券	650,389	948	14,794
その他	270,256	1,891	13,498
合計	1,680,572	26,848	28,495

7. 保有目的を変更した有価証券  
該当ありません。
8. 減損処理を行った有価証券  
該当ありません。

（金銭の信託関係）  
該当ありません。

（税効果会計関係）  
繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ次のとおりであります。

繰延税金資産	
未払事業税	191 百万円
控除対象外消費税	87
賞与引当金	48
繰延ヘッジ損益	612
その他	23
繰延税金資産小計	964
評価性引当額	△ 26
繰延税金資産合計	938
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	4,280
その他	54
繰延税金負債合計	4,334
繰延税金負債の純額	3,396 百万円

（持分法損益等）  
該当ありません。

（賃貸等不動産関係）  
該当ありません。

（1株当たり情報）  
1株当たりの純資産額 13,564,259円70銭  
1株当たりの当期純利益金額 291,792円44銭

（重要な後発事象）  
該当ありません。

**(単体自己資本比率(国内基準))**

銀行法施行規則第19条の2第1項第3号ロ(10)に規定する単体自己資本比率(国内基準)は、32.36%  
であります。